

4-10

在宅生活に近い環境の中での自立支援の取り組み

残存機能の有効活用

認知症ケア

生活リハビリ

認知症通所介護 こもね在宅サービスセンター

発表者：相談員 萩原 圭子

所在地：東京都板橋区小茂根4-11-11

TEL：03-3959-7436

E-mail：komone@spn6.speednet.ne.jp

FAX：03-3959-7438

URL：<http://www.komonenosato.com/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

平成9年特別養護老人ホーム開設後 ショートステイ、デイサービス、在宅支援センター、訪問介護、訪問看護、包括センターがある高齢者福祉施設として地域に根付いたサービスに努めています。最寄の駅より徒歩5分、環状7号線沿いにある交通の便に恵まれた施設です。

〈取り組んだ課題〉

認知症の方々にも役割や楽しみを持って頂く事で、自信を持った生活を送り、安心、穏やかに過ごせる環境作りを目標に取り組んだ。

〈具体的な取り組み〉

○ デイサービス内で行える、生活習慣動作の実施

- 到着時にご自分の名札を探し、コートや鞄に名札を付け、ハンガーに掛けるまでの動作をご自分で行っていただく。
- テーブルにお茶の入った急須、湯のみを設置し、利用者の方に入れていただく。
- 食事前のテーブル拭きや食後の下膳、湯のみの洗浄など家事動作を行っていただぐ。
- 月に2回「クッキング」を活動に取り入れ、女性の方は長年の経験を生かして頂き、また、男性の方にも、新たな経験をしていただく機会を持っていただぐ。
- 園芸プログラムを活動に取り入れ、園芸材料の購入から携っていただき、土壤作り、種まき、手入れ等、趣味で園芸をされていた方や経験豊富な方の意見を参考に進めている。

○ 活動に役割や習慣づけを行う

- 到着時のバイタルチェックの際に、記入用紙を配り、個々に名前を記入し、ご自分で測定できる方はご自分で機器を操作し、機器操作が出来ない方は、職員が読上げた数値を記入していただく。
- 学習プログラムを活動に取り入れ、計算、音読、漢字の書き取り等、20分程度の問題を行っていただぐ。鉛筆や消しゴムを使用前使用後に数え、終了後の用紙をご自分のファイルに綴じる作業まで、ご自分で行なっていただぐ。

- 食後に口腔ケアを実施する為、ご家族に、歯ブラシの持参を依頼。テーブルに並べた歯ブラシの中より、ご自分の物を探していただぐ。出来る所は自己にて洗浄していただき、不十分な箇所は介助にて行う。最後に、口腔内の状況確認を行う。

- 重度の認知症の方、下肢の浮腫、水虫の方などに足浴を実施。アロマオイル、入浴剤などを使用し、足浴中はリラックス効果を意識したBGMを使用。浴後の爪きり、クリームを使用したマッサージを実施。軽、中度の認知症の方々は合わせて、タオルを使用した、足指体操を行い足指の血行促進を行う。

〈活動の成果と評価〉

- 初めのうちは、利用者の方も一つ一つの動作の指示が必要であったが、習慣になると、簡単な声掛けで行えるようになっていった。
- お茶入れ等の家事的動作は、他の方への気配りも見られるようになってきている。
- ご自分の趣味を生かした活動に参加される事で、積極的に参加する事が出来た。また、男性の方々が喜んで参加できる活動となった。
- 学習プログラムでは、問題を解く時間を5分間に区切り、その間、私語も無く集中して行えるようになった。集団の中で行う為、問題が解けない事に対しての劣等感などを感じてしまう方も出てしまった。

〈今後の課題〉

- 家族会や家族参加型の活動を開催し、ご家族との共通理解を深める。また、「生活リハビリ」として、ご自宅でも継続できるような活動の提供を目指す。

【メモ欄】